

自由民主党 中央政治大学院
まなびとスコラ・オープン講座
憲法に学ぶ「この国のかたち」

第2期「まなびと夜間塾」第10回講座

2021年6月3日

講師：フリージャーナリスト 田原総一郎 氏
テーマ：「岸・池田総裁時代」

どうもこんにちは。田原総一朗です。

実は、私は大学を卒業して岩波書店で映画を……岩波映画（製作所）というところに入りました。1960年。そして連日、安保反対デモに参加しました。安保反対、岸（信介／当時首相）は辞めろ！ 連日。この岸のやろうとしている安保条約は日本がアメリカの戦争に参加するための安保条約に違いない。戦争をしないという日本を戦争させる国にしようとしている。とんでもない。当時の国民のほとんどがそう思っていました。それで安保反対。学生たちも東大をはじめ皆ほとんど安保反対デモ。安保反対デモ、当時、東大駒場のリーダーだった西部邁は安保反対デモで責任を取らされて7か月警察に拘留されますが、そういうのが沢山いた。

岸信介は東條内閣の閣僚だった。戦後、岸はA級戦犯になって、東條たちが処刑された翌朝釈放された。翌朝釈放ということは、「岸はアメリカと密約があるに違いない」と。何かある。しかも岸は、CIA（米国中央情報局）から結構なカネをもらっていることがはっきりしている。それで密約がある。だから要するに岸の安保条約は、アメリカの戦争に参加する、日本が加担する。いわば憲法違反。これをやろうとしているのだと。

それで全国の国民が「反岸、反安保」。盛り上がりました。60年安保は非常に盛り上がった。その最中6月15日に東大の女子学生、樺美智子さんが鉄管パイプで闘争中に死亡した。樺美智子さんが死亡したことが大きく報じられて、結局、岸さんは辞めざるを得なくなった。そして池田勇人総理（第58代内閣総理大臣）になる。

ところが、その後、さっきも言った西部邁という男がいる。この人は後に右翼になるのだけれども、当時は東大で安保反対のデモの指導者になり、そして7か月間、警察に拘留された。今は左翼の文化人も西部を尊敬している。逃げないでちゃんとやっただと。

その西部が大学を出てから朝日新聞に入った。実は我々は、西部も僕も、「岸の安保条約」も「吉田茂の安保条約」も読んでいない。吉田茂の安保条約は完全に占領政策の延長である。吉田茂の安保条約では、アメリカは日本でどこにでも思いのままに基地ができる。思いのままに基地ができて、しかもその基地は日本にとってどういう意味があるかは全く書かれていない。要するに吉田茂の安保条約は、アメリカが勝手にいくらかでも基地がつくれるというための安保である。

実は後から知ったのですが、吉田は、この安保条約に反対だったということです。やりたくなかったと。ところが、アメリカは昭和天皇に圧力をかけて、吉田が安保条約に参加するように言えと。昭和天皇に言われて吉田は仕方なく受けたということですね。吉田の

安保条約は全く占領政策の延長だと。

そこで、吉田の後、総理になった鳩山一郎は（第 52 代内閣総理大臣）は、この安保改定をしたかった。こんな安保は占領政策の延長だ。安保改定をして、少なくともアメリカが基地をつくるためには事前に日本と相談し、日本の許可を得なければ、そして日本に基地を折角つくるのだから日本を守るための基地でなければならない。日本がどこかから叩かれたらアメリカは日本を守ると、こういう条件をしっかりと言おうと、こういうことをやったのだけれど、アメリカは全く OK しない。冗談ではない。そんなバカらしい安保改定などできるかと、いうことでやらなかった。

実は、鳩山一郎って知らないでしょ？ 何で彼が総理大臣を辞めたのか？知っている？ 何で辞めたか。自民党の議員も勉強していないのだ。何で辞めたか知っている？ 鳩山はソ連と 2 島返還の交渉をしたのだよ。それでソ連が乗ってきた。当時は冷戦時代。日本がソ連と仲良くするという事はアメリカへ対する裏切りだ。こんな奴を許せるか！ということになって、アメリカが財界にだいぶ圧力をかけた。それで鳩山は辞めざるを得なくなった。つまり鳩山を辞めさせたのはアメリカなのです。それで鳩山は安保改定できなかった。

ところが、岸は何でできたか？実は、岸の時代になったら、米軍基地反対闘争が非常に広まった。内灘（石川県河北郡内灘町）、砂川（東京都立川市）、あちこちで、米軍基地反対運動が高まって反米感情が非常に高まった。さらに、群馬県の農婦をジラードというアメリカ軍の兵士が射殺した。「ジラード事件」（1957 年）。これで一気に日本で反米感情が盛り上がった。「けしからん、アメリカ軍は帰れ！」非常に反米感情が盛り上がった。アメリカとしては日本と何とか仲良くしないとイケない。そこで当時の大使が安保条約改定を OK しよう。「岸、安保条約改定を OK する」と。それまで絶対反対だった。

それで岸との交渉の中で安保改定。1 つは、基地を増やす時には事前に日本と相談して、日本の了解がない限り基地は増やさない。それより大事なことは、在日米軍は日本がどこかからただならぬ戦争をされたら「絶対に日本を守る」。この 2 つの条件を受け入れた。初めて岸の安保は吉田の占領政策の延長ではなく、日本にとって意味のある安保改定であった。

ところが、何で反対運動が起きたのかというと、岸にすれば安保改定の前に警職法（警察官職務執行法）の改正をしようとした。つまりアメリカはまず、マッカーサーは日本を弱くしたいと思った。戦争した国だから。だから、まず軍隊をやめさせる。2 つ目、財閥

解体。日本の経済力を弱める。3つ目、日本の警察力を弱める。いいですか。アメリカは、日本の軍隊を解体・非武装。財閥解体で日本が再び経済力を持たないようにする。3つ目は警察力を弱めたい。そこで実は、その3つの中で財閥解体は、朝鮮戦争が起きてアメリカの日本弱体化政策が変わるわけです。朝鮮戦争が起きて在日米軍が朝鮮半島へ行く。そうすると日本に軍隊が全くないのでは危ない。そこで「警察予備隊」をつくる。軍隊と違う。警察予備隊をつくる時に、なんと吉田は反対するのだよね。さらに1954年に自衛隊をつくる。これも日本はつくりたくなかった。アメリカがつくれと言ってつくらせた。

そういう中でもう1つ、岸は要するに憲法改正をしたいと思っていた。憲法改正をするとな国民の反対が強まる。これを押さえるには警察力を強めないと無理だ。だから警職法の改正をしようとした。この警職法の改正については、野党だけでなく与党にも反対があった。そんなことをしたら戦前の警察になると。警職法の改正に対して、岸は与党からも反対されて、そして安保改定になった。だから警職法の改正をする岸は戦前に帰りたいと思っているのに違いないと思って、安保反対となった。

ところが、その西部邁は、彼が社会人になってから、本当に無責任だけれど僕たちは吉田安保も岸安保も（条文を）全く読んでいない。岸は米軍と密約があったに違いないと勝手に思っていた。ところが、吉田安保と岸安保は全く違う。岸安保は、日本の主体性つまりアメリカが基地を増やす時には事前に日本と協議しなければならない。それから在日米軍は日本がどこかからやられたら日本を助けないといけないと、きちんとある。吉田安保から見ると岸安保は非常に進んでいる。全く知らないで俺たちは安保反対と言っていた。確かに僕も全く読んでいなかった。

さらによくよく思うと、岸が面白いのは、東條内閣の閣僚だった、これ知っていますね。だから戦犯なのだけれども、サイパンがアメリカに取られたとき岸は、サイパンがアメリカに取られたら、もう日本は連日、空襲を受け。敗けるに決まっている、だから東條に戦争を止めるべきだ、敗戦交渉に入ろうと。東條はノーと言う。これはね、今から思うと危険な話よね。全権を持った時の総理大臣に、戦争を止めろと進言し、降伏しろと言った。非常に危険な行動。あえて岸はこれをやった。東條はノー。結局、当時の法律で、まとまらないと内閣が持続できない。東條内閣はこれで解体。東條内閣を解体に追い込んだのは岸なのですよね。これは今から思うと命を懸けた行動だったと思う。

それで、岸は警職法改正の問題があつて国民から誤解を受けて結局、辞めざるを得なかった。僕は岸と2回会っています、総理大臣を辞めてから。1つ面白かった。韓国の大統

領、あの女性の親父、パク・チョンヒ（朴正熙）が韓国を統一した後、日本にやってきて岸に会うのですよ。岸から自分に来た。パク・チョンヒは日本に2つ頼みに来た。韓国という国は、国家を統一してトップに立っても、辞めたら逮捕されるか、殺されるか。だから辞めたら亡命しないとイケない。亡命するためのカネを貯める、だから「スイス銀行を紹介」してくれ。それから韓国人は信用できない。だから「日本人を何人か貸して欲しい」。大臣にしたい。内閣を造りたいと。

それに対して岸は、スイス銀行は紹介する。だけど大臣は貸すわけにいかないから、岸の下でやっている、何と言ったか、（瀬島龍三・笹川良一・児玉誉士夫？）彼を紹介して、その彼に全部相談して内閣をつくった。韓国のその内閣は岸が仲に入っている。

実は、もう1つ、佐藤栄作内閣。佐藤内閣知っている？ 佐藤内閣の時にまた岸と会った。あんな奴は総理大臣を辞めるべきだと。弟のことですよ。つまり佐藤は憲法改正に反対なのだよね。憲法と自衛隊は明らかに大矛盾している。こんな無茶苦茶なのは国家と言えないと。あんな奴はクビにしたいと言っていました。

そこで岸の話は終わりました、池田に入ります。実は、1971年の秋、佐藤内閣の末期、沖縄返還された後、僕は宮澤喜一と会いました。宮澤は当時大臣を歴任し、いわば頭脳派の代表、ハト派の代表でもあった。その宮澤に会いたいと言ったら宮澤が会ってくれた。そこで、宮澤喜一に、「池田や佐藤は国民を騙しているじゃないか。あいつは辞めるべきだ」と言った。なぜならば、自衛隊ができたのは1954年、自民党ができたのは1955年。最初の総理大臣が鳩山一郎。誰が見ても自衛隊と憲法は大矛盾している。なぜなら「憲法9条2項に日本は戦力を持たない」、「交戦権を持たない」と。ところが自衛隊は明らかに戦力であり、交戦権を持っている。交戦権を持たないってそんなのはあり得ない。だから憲法と自衛隊は明らかに大矛盾している。誰が見ても。だから鳩山一郎は自主憲法制定、つまり憲法改正論者。岸も憲法改正。

ところが、池田・佐藤以後、田中も、ずっと憲法改正を誰も言わない。これはもう大矛盾でインチキだ。だから宮澤に池田も佐藤も国民を騙している、こんな奴は総理大臣の資格ない、辞めるべきだと。そしたら宮澤さんがこう答えた。この宮澤の説明に僕は本当にすっかり参って宮澤ファンになった。宮澤はどう説明したか。

「田原さん、はっきり言って、日本人というのは自分の身体に合った洋服を作るが下手だ。押し付けられた洋服に身体を合わせるのには上手い」

押し付けられた洋服とは憲法です。自分の身体に合った洋服を作るのが下手とは何か。

ちょっと詳しく言いますと、「田原さん、昭和維新を知っているか」。皆さん知らないと思う。今、日本の歴史は滅茶苦茶なのです。これは米軍が占領政策としてつくった歴史をそのままやっているわけ。だから本当の歴史を教えていない。僕は戦前に小学校へ入ったから一応、昭和維新を知っている。

「昭和維新を知っているか」というので

「知っているよ、と」。

昭和維新というのは、皆さん知らないよね？ 実は、第1次世界大戦が始まるまでは、戦争をして弱い国を敗かせるのは当然だと。それが常識だった。敗けた国を植民地にする。これも世界の常識。誰も疑わなかった。ヨーロッパ、イギリス、ドイツ、スペイン、オランダ、アメリカを含め、これらの国々は全部、弱い国と戦争して敗かして植民地にした。

ところが、第1次世界大戦が終わった。「ベルサイユ講和条約」、中身、知っている？

(中谷学院長「はい。国際連盟」)

これね、教えていない。ベルサイユ講和条約の一番の基本が「侵略戦争を認めない」。これは日本の憲法第9条の第1項だね。侵略戦争を認めない。これがベルサイユ講和条約だ。侵略戦争を認めないということは、侵略戦争で奪った植民地を全部解放しなければいけない。にもかかわらずヨーロッパ諸国、アメリカ、どこも植民地を解放しない。

そこで、昭和維新とは、アジアではタイ以外の国が全部植民地だった。だからアジアのタイ以外の国々を独立させ解放させる。それが日本の役割だ。これが昭和維新だと。タイ以外の国を全部独立させ解放させる。そのために日本はこれだけの力があるということを世界に知らせたい。そのために何をしたか。中国の本土は蒋介石がちゃんと守ったけれど、満州は5族が無茶苦茶だったから満州を独立させよう。実は当時の政府の人が、国際連盟はアメリカが主張したのです、知っていますね？ ところがアメリカは上院が否定して国際連盟に入っていない。国際連盟の会長はイギリス人、ナンバー2はフランス人。日本政府はイギリスに縁があって満州国を独立させたい。このための手当てをする。これが満州事変。今、満州事変は侵略戦争になっているけれど、違う。満州国を独立させるための戦争。さらにイギリスもフランスもこれをOKした。これが今おかしいことになっている。

実は、この満州事変を調べるためにリットン調査団というのがやって来た。知っていますね？ リットン調査団は満州国を認めさせるはずだった。ところが、国際連盟の最終的な会議の途中に、日本は熱河省を攻撃した。侵略戦争だということで日本は国際連盟を離脱しなければいけなくなった。

ところが、国際連盟を離脱した翌年、イギリスが日本に「蒋介石がカネに困っている。イギリスと日本で蒋介石のためにカネをつくってやろう。1,000 万ポンド。これを出してくれたら蒋介石を口説いて満州独立を認めさせる」と言っている。イギリスの特使の名前も全部わかっている。歴史に書いてあるけど。日本政府はこれを呑もうとする。

ところが、その前年に 5.15 事件、犬養毅（第 29 代内閣総理大臣）が殺された。翌年、2.26 事件。こんなものを呑んだら政府は軍に殺される。そこで政府は、これを否定する。そのために国際的に孤立する。

つまり、これはまた大事で、当時、何が起きたか。日英同盟って知っているでしょ？ これは素晴らしい。日英同盟が持続していれば、恐らく日中戦争も大東亜戦争も起きなかった。ところが、アメリカが妬いて第 1 次大戦後に日英同盟を破棄させたのだね。そこから日本はとんでもないことが起きた。日英同盟を破棄されたとなると最終的には日本はアメリカと戦わざるを得ないだろう。最終的にアメリカと戦わざるを得ないということに反対したのはほとんどいなかった。石橋湛山ぐらいだね。日本が中心になるからイギリスと妥協して中国にカネを出すなどとんでもないと。そこで犬養が殺され、2.26 があり、結局、政府は軍が恐くなって何もできなくなる。イギリスからの要求を国際的に消す。

さらに、一番大きいのは日中戦争です。日中戦争には、満州事変を起こした大川周明（日本ファシズム運動の精神的指導者）も北一輝（思想家）も石原莞爾（関東軍作戦参謀）も全部反対。日中戦争なんかやったらアメリカにやられる。反対。当時の総理大臣・近衛文麿。近衛の勉強会「昭和研究会」も反対。近衛も反対。だけど近衛は総理大臣だから、簡単に反対できない。そこで広田弘毅を外務大臣にして、当時ヨーロッパでいちばん力があつたヒトラーに頼んで、駐中国大使（オスカー・）トラウトマンと広田弘毅の会談に蒋介石を引っぱり込もうとする。最初、蒋介石は相手にしない。だんだん日本が中国を進んでいって形勢が悪くなり、蒋介石がトラウトマン・広田弘毅の会談に入ろうとする。心を決めたちょうどその瞬間に日本軍が南京陥落。それで軍は自信過剰になって蒋介石に賠償金を出せと。出すわけがない。近衛としては、本当は収めたい。これを続けたらアメリカにやられると。本当は収めたい。でも収めたら 2.26 事件、殺される。近衛は気が弱いので、なんと「国民党を相手とせず」なんてバカなことを言って。これは宮澤の解釈ね。結局、近衛が軍を恐れて、訳の分からない戦争になっていく。

さらに昭和 14 年 7 月下旬。アメリカと戦争して勝てると思った軍人は誰もいなかった。昭和天皇が 7 月の下旬に、これも今、歴史に残っていないけれど、実は残っているのです

よ、宮澤の聞き書きで。昭和天皇が、当時の陸軍参謀総長杉山元、海軍の軍令部総長永野修身を呼んで、「こんな戦争でいいのか」と聞く。杉山は全く答えられない。敗けに決まっているのだから。下を向いてしまう。永野は2年たったら日本は資源がないからもう戦えません。戦うなら早く戦わなければならない。永野の頭の中には当時、大東亜戦争緒戦に戦果を出したらソ連に頼んで仲介してもらおうと。実は、日露戦争はアメリカに頼んで仲介してもらった。あれも本当は勝てる戦争ではなかったのですよ。アメリカに頼んで仲介してもらったのです。だから日比谷公園で焼き討ちを受けるわけね（日比谷公園で行われた日露戦争の講話条約ポーツ、マス条約に反対する国民集会をきっかけに暴動事件が発生した）。

今度はソ連に仲介してもらって大東亜戦争をやめよう。ところが、そんなものは叶わなかった。秋に、なんとヒトラーとスターリンが戦争してしまった。どうしようもない。

東條も戦争には反対だった。猪瀬直樹が書いているね、『昭和16年夏の敗戦』という本。東條は海軍が最後は反対してくると思っていた。海軍は予算が欲しいから反対しなかった。ということで、誰ひとり勝てると思っていないバカな戦争に入ってしまった。

結局、宮澤によれば、最終的にはアメリカと戦わなければいけないという気持ちが日本にあって、結局、軍が政治を押さえ込んだ。軍が得をした。

軍が政治を押さえ込んで失敗した例を挙げると、アメリカがそうなのです。トランプ政権の時の（ジェームズ・）マティス国防長官。日本の防衛大臣たちはみんなマティスを尊敬している。なぜか？ マティスは、アメリカが大失敗したと。アメリカは戦争に勝てばいいと思った。フセインが中東で勝手放題している。フセインのイラクを潰せば中東は安定すると思った。ところが、フセインのイラクを潰したら、中東は無茶苦茶になった。大混乱。それで結局、アメリカ人は心からイラク戦争大失敗だったと認めて、アメリカ初の黒人大統領を選んだ。オバマを選んだということはアメリカ人がそれまでの軍中心のやり方に大反省をした証拠だとマティスは言っているね。でしょ？ そのマティスをトランプはクビにするのだよね。

それで、要するに宮澤は、結局、日本人は自分の身体に合った洋服を作ろうとして軍が突起してクーデター、クーデターで、政治が完全に押さえ込まれたと。で、大東亜戦争失敗。

実は、吉田内閣の時に、池田と宮澤が2人でアメリカに二度行く。当時、宮澤の資格は池田の秘書だけど英語がペラペラで、宮澤が全部やった。その宮澤から聞いた。アメリカ

に行ってアメリカを相手に宮澤は言ったという。「あんな憲法を押し付けられたら、日本はまともな軍隊を持てるわけがない。あんな憲法って今の憲法よ。まともな軍隊など持てるわけがない。だから日本の安全保障はお前さんが責任を持て」と宮澤が言った。池田はもちろん。アメリカは当時もその後も日本を強い国にしたいくない。だから、「わかった、引き受けた」と。それ以後、日本が安全保障はアメリカに委ねて、安全保障を考える必要がなくなった。

ところが、1965年にベトナム戦争が始まった。佐藤内閣の時。そうしたらアメリカは、「自衛隊よ、ベトナムで戦え」。佐藤は困った。アメリカの言うことにNOと言えない。その時に宮澤が佐藤のところへ行って、「本当は日米同盟だからベトナムへ行って戦うべきだけれども、アメリカが難しい憲法（※戦争放棄の新憲法）を押し付けたから、行くに行けないじゃないか」と言って、佐藤は行かずに済んだ。

要するに、それ以後、池田、佐藤、田中、中曽根（康弘）、小泉、安倍、つまり安全保障は完全にアメリカに委ねて、憲法を逆手に取ってアメリカの戦争に巻き込まれない。これで日本はやってきたのね。安全保障を完全にアメリカに委ねるため経済に集中して高度成長できた。成功したわけね。これが戦後の日本です。だから安全保障は完全にアメリカに委ねる。その代わりにアメリカの言うことを聞く。実は、小泉内閣の時に、まだ少し話していい？（中谷学院長「はい、どうぞ」の声あり）

岡崎久彦と北岡真一（政治・歴史学者）の2人が僕のところへ来た。困ったことが起きたと。岡崎久彦、知っているね？ 外務省のトップだね。何が起こったのか。

冷戦が終わった。冷戦が終わるのはいいことじゃないか。いや、冷戦というのは東西の冷戦だから、東西冷戦の時に日本は西側の極東部門だ。東西冷戦の時にアメリカは西側の極東部門を守る必要があった。だから岸の時、日本が攻められたらアメリカは日本を守る。アメリカが攻められたら日本は何もしない。これでよかった。

ところが、ソ連が敵でなくなった。アメリカは西側の極東部門を守る責任がなくなった。その時からアメリカは、「岸の安保条約はダメだ」。あれは片務条約だ。片務じゃなくて双務にしろ。ところが、双務にするのは日本人みんな反対だ。でも何とか双務にしないとアメリカは日米同盟を持続しないと言っている。どうすりゃいいのだと。

本当は、岡崎たちは小泉内閣でやりたかった。小泉が反対した。安倍内閣で、このままでは日米同盟持続しない。どうするか？そこで、高村正彦（自民党副総裁）が公明党の北側一雄（副代表）と会って、自民・公明の長い長い交渉があって、公明党はもちろん双務

には大反対だったけれども、結局、条件付きで、どこか戦争が起きて、それが日本の国民の安全を完全に傷つけるという条件の時には「集団的自衛権を認めよう」ということになって、それに対して安倍が反対！ こんなんじゃ結局、何もできない。大反対。みんな反対だった。高村が「これに反対したら公明党との連携は壊れる」。そうしたら岡崎が「まあしようがないか」と。これが集団的自衛権。

この集団的自衛権に対して朝日新聞も毎日新聞も反対だった。僕は朝日新聞のトップに会って、反対と言っている。では「日米同盟から外れていいのか」。日米同盟をやめたら日本は核兵器を持たないといけないぞと。このかたちは山口那津男や公明党も言っているけど、結局、こんなのはあり得ないから、日本は戦争などない。だからOKした。と話したら朝日新聞のトップは、よく分かる、田原さんの言うことに賛成だ。毎日新聞のトップにも話したら賛成で、一応、朝日も毎日も認めた。これを訳の分からない学者たちが反対している。ただ一番の問題は、これをやらないと「アメリカが日米同盟を破棄する」ということ。そのギリギリの選択でこれをやらざるを得なかったということですね。

この時は岡崎も言ったけど、まだパクス・アメリカーナ（アメリカによる平和）が生きていた。第2次大戦後、アメリカは世界で一番、力が強くて豊かだ。だから世界の平和を守る、世界の秩序を守るのがアメリカの役割だ。これがアメリカ人のプライドであり自信であり使命感だ。これをパクス・アメリカーナといったわけね。集団的自衛権の時はまだパクス・アメリカーナは生きていた。

ところが、アメリカは国力が低下して、オバマ大統領の時に「アメリカは世界の警察をやめる」と言った。これはパクス・アメリカーナの半分放棄。そしてトランプに至っては、世界のことはどうでもいい、アメリカさえ良ければいい。

実は2年前に、(ジョン・) ボルトン（トランプ政権時の国家安全保障問題担当大統領補佐官）が、もしトランプが再選されたら、日本の防衛費を2倍にしろ、しなかったら日米同盟破棄だと言っている。どうする？

そこで去年の6月、安倍さんに、今まで日米同盟は、いわば受け身の同盟で、全部アメリカに委ねて、アメリカの言うことを聞いていればよかった。だからアメリカの高い兵器をいろいろ日本は買っていますね。あれも安全保障のために、言ってみれば、どうでもいいものを、アメリカと仲良くするために買っているのですよ。だけど、こうなると安全保障を放棄して、アメリカに委ねて、というわけにいかなくなる。安全保障を主体的に考えざるを得なくなる。だから受け身の日米同盟ではなくて、「積極的な日米同盟」にしなければ

ばならないと。そう言ったら、それは本格的に取り組まなければいけないですねと言いながら、彼は病気になって辞めてしまった。

そこで、菅義偉さんが首相になってから、何とか応援しなければいけない、菅さん二階と、話をした。実は、菅－バイデン会談の直前に、細谷雄一と2人で菅さんに会った。もちろん菅さんに、今までと違って日本は、積極的な日米同盟にしなければならないと。「菅－バイデン会談」になったら、きっと今までと違ってアメリカは日本に、アメリカの同盟国としての役割を要求してくるだろう。さあ、どうすればよいか？これが今、日本に与えられた問題で、僕は決してそのために日本の軍事力を強化せよと言っているのではなくて。これは菅さんにも二階（俊博）さんにも言っているよ。

かつて日本は日中戦争でアジアを占領化した国の歴史がある。今、日中関係は日米関係よりも、経済はむしろ中国の方が強い。それを考えて、どうすれば米中対立が起きなくなるか。この戦略を主体的に考えなければいけない。これが今、日本で問われている。特に野党はあまり考えていないから、自民党が本当にしっかりと主体的に考えなければならないという話をした。中谷さん。頑張ってください。それで勉強会をやっているのです。大事な問題、要するに米中対立が起きないために、どういうことをやらなければいけないか、です。

務台（俊介 衆議院議員）中央政治大学院副学院長：ありがとうございました。

宮澤元総理が、日本は自分で自分に合った服を作るのが不得意だとおっしゃった、そういう時代を経て、今や自分で自分の服を作らないと。

田原講師：あのね、戦争を否定するのは皆そう思っている。田中角榮も中曽根もみな自分の洋服を作るのが不得意だった。中曽根って知っているでしょ？中曽根の時に日本はアメリカにむちゃくちゃ言われるわけ。あまり知らないのではないか。要するに、実はあの時に、冷戦構造で、アメリカの敵はソ連だったが、時の大統領レーガンは、ソ連はたいしたことがない、どうでもいい。アメリカの敵は日本だと決めつけた。というのは日本からアメリカへ集中攻撃的にガンガン輸出している。アメリカは膨大な貿易赤字がある。だからアメリカの敵は日本だと、レーガンが決めつけた。そうして、時の大蔵大臣の竹下登をニューヨークに呼びつけた。親しいからね。竹下に「何で集中豪雨的にアメリカに輸出できるのだ」「円が安いからだ」「円高にしろ！円高にしないと日本を潰すぞ」と。「プラザ合

意」の声あり)

そこで、竹下は、当時、円が 240 円だった。まあ 200 円ぐらいまではしょうがなかった。150 円になってしまう。円高不況。さらにアメリカは、「なぜ日本は集中豪雨的にアメリカへ輸出するのか」「それは内需拡大できないからだ」「内需拡大しろ」。それで「前川レポート」2 回出す。むちゃくちゃ内需拡大したからバブルになった。

それから「日米構造協議」、これはウソで、アメリカの主導権で日本の壁をブチ破る。半導体やいろんなもの全部輸出系。中曾根に、何でこんなアメリカの無茶苦茶な要求を呑まなきゃいけないのだと。僕は歴代総理に全部本音を言っていますからね。何でこんな無茶苦茶な要求をアメリカは言うのか。「それは日本の安全保障を全面的にアメリカに委ねている、だから呑まざるを得ないのだ」こう言っていた。

無茶苦茶な要求で、日本はバブルが弾けて、90 年代、不況になって、今になる。日本はこれからどうすればよいか。本当に真剣に考えなければならない。こういうことです。

務台 副学院長：当時と情勢が大きく変わり、日本がどういうふうに主体的に考えるか、そういう時代が来たというお話だと思います。

【質疑応答】

務台 副学院長：それでは最後に、ご出席の国会議員の先生方から、ご質問ご意見を伺いたいと思います。武井先生、どうですか。

武井 俊輔 中央政治大学院副学院長：ありがとうございます。副学院長をしています武井俊輔でございます。今日は大変貴重なお話をありがとうございました。

まさに岸・池田というお話であったわけですが、結局、池田は所得倍増と言った。政治の季節から経済の季節みたいなことを言われたわけですが、結果として日本国民のそれからの政治に対するモノの見方というのが、池田さんも亡くなる前に「国民を甘やかしてしまった」とおっしゃったと、伊藤昌哉（元池田首相秘書官／政治評論家）さんが回顧録で書いておられましたが、その後、日本人の政治に対する、我欲というか、“私”にするような価値観というものを逆に作ってしまった、経済発展がそういう副作用を結果として生んでしまったのではないかと。そういった懸念を池田さん本人も持っておられたというふうな

ことだったわけですが、先生はそのあたりをどのようにご覧になっているか、お伺いしたいと思います。

田原 講師：このあいだ、二階さんに会って、ぜひやるべきだ、と。来週のそのあたりの障りをも言います。

日本は、公的文書を隠すのが当たり前だと思っている。冗談じゃない。江藤淳（文芸評論家）という男は何度も取材しているけれど。戦中・戦前の資料を日本は全部焼いちゃったと。アメリカは自分にとって都合の悪い資料も全部ある。戦中・戦前のそれを調べるために衛藤は6年間アメリカに留学した。

このあいだ二階さんに会って、森友・加計・桜を見る会、みんな公開しないと、森友だって。実は、安倍内閣で大失敗したことが1つある。小泉内閣から、マネースキャンダルがなくなったのですね、小選挙区制になって政党助成金があつて。

安倍に対して、政策は全部、言いました。ほとんど僕の言う通り、安倍さんは守った。ところが、マネースキャンダルに興味ないから、森友の時には全く取材しなかった、佐川宣寿にも籠池泰典にも麻生太郎（財務大臣）にも。大失敗だったと思っている。

桜を見る会を共産党の田村智子参議院議員が引っぱり出した時には、とんでもない、税金の私物化だ。当時官房長官だった菅さんに、「自民党は腐っているじゃないか。かつての自民党なら、安倍さんが自分の後援会員を桜を見る会に呼んだら、誰か実力者が「安倍さん、止めなさい」と言ったはずだ。安倍さんは素直な人だから、実力者が「止めなさい」と言ったら、やめたはずだ。どの実力者も「止めなさい」と言わないで、みんな自分たちの後援会員がどんどん桜を見に来た。菅さんは後援会がないからやっていないけれども、自民党、腐っている、と菅さんに言ったら、田原さんの言うことに反論も弁論もできない。何でこうなったのだろう？ と。1つ目は野党が弱すぎる。2つ目は選挙制度が変わって、皆が安倍イエスマンになって文句を言えなくなった。

実は2年前、安倍さんが3選後、僕は安倍さんに言った。森友・加計問題は国民の70%以上が問題だと思って怒っている。知っていますね？僕は自民党の国会議員を馬鹿にしている。問題だと思っているはずだ。誰かあなたところに問題提起した人がいるかといったら誰もいない。1人もいないのか？ということは自民党の国会議員が、どうすべきか何をしていいか分からなくて、あなたのゴマすりばかりだ。こんな無責任な野郎ばかり相手にしていたら、この国は危なくなると心配にならないか？と安倍さんに言ったら、

田原さん、言われる通り失敗の気持ちでいっぱい。何で自民党議員が言わないのだよ、言わなければダメだよ。こういうこと言わないと自民党はダメになって日本の国は墮落すると思う。かつての自民党ならガンガン言ったよね。そういうことを言える空気にしなればダメ、自民党がね？ 石破さん。こういうことを自由に言える空気しないとダメよ。

もう1つ言おうか、つまらないこと。昔、野田聖子が総裁選に立候補しようとした。一時は25人集まった。そうしたら執行部が野田の「応援なんかしたら公認しないぞ」と言われて7人が降りちゃって、野田は立候補できなかった。その後、安倍さんに僕は言った。何をやっているのだ、野田が立候補したってそんなもの当選するわけない。野田が立候補できるから日本は北朝鮮と違うのだ。野田が立候補できないなら北朝鮮と同じではないか。そうしたら安倍さんが、僕は別に野田の邪魔をしたわけじゃないけど、それは本当によくないと思う。一切これからは邪魔するな。で、石破さんが立候補するとき邪魔しなかったよね？

石破 衆議院議員：邪魔は、されていません。(笑)

田原 講師：そういうことをね、言えばわかるので。だからさっきも言った二階さんに、公文書は全部保存して、国会で要求されたら、ちゃんと公開するようにしろと。そうすれば恐らく菅内閣の支持率も上がる。間違いなく。ね？ 問題ないよね？

中谷 学院長：はい。きちんと説明をして納得してもらおうということですね。

田原 講師：アメリカはそうやっているのだからね。イギリスだって。そういうことです。

何より自民党がね、やはりもっと自由に話せなければ。実は僕、安倍さんにね、とんでもないこと言ったのだよ。安倍さんが2013年12月26日に靖国参拝した。2013年12月26日ね。普通は総理大臣が靖国参拝すると、韓国、中国が批判するのだよ。この時はアメリカまで批判したのだね、石破さん。僕は安倍さんに実際会って、

「普通は総理大臣が靖国参拝すると韓国と中国が批判する。今度はアメリカが批判した。何でだと思うか」

またこれ自民党、誰も言わないのね。

「田原さん、何でだと思う？」というから、それはあなたが岸信介の孫だし、アメリカは

あなたのことを歴史修正主義者だ、戦前の日本に戻したいと疑っている。歴史修正主義。あなたは「戦後レジームからの脱却」と、第1次安倍内閣の時から言っている。あなたとしては筋があるのだろうと思うけど、アメリカから見れば歴史修正主義者だ。だから安倍内閣を続けたいと思ったら、二度と「戦後レジームからの脱却」を言うな。それから総理大臣であるなら、二度と靖国へ行くな。あなたは東京裁判を批判している。あなた流には理屈があると思うけど、これは反米だ。

安倍内閣を続けるのであれば二度と「戦後レジュームからの脱却」言うな、二度と靖国へ行くな、二度と東京裁判批判するな、と。そうしたら、しばらく考えて、「よく分かりました」と。

わかるでしょ？ そういうことをちゃんと言う。安倍さんは聞き分けがいいのだから。言えば聞くのだからね。

それで、最悪だと僕が思っているのは、前法務大臣夫婦がパクられたね？ 河井案里。あの時は知らなかった。後から調べて、自民党はバカヤロウだと思ったよ。自民党幹部の誰かが安倍さんにゴマをするために、溝手顕正（元参議院議員）はあなたの悪口を言っていると。あんな奴は議員を追放しなければならない。だから誰かを出そう。で、河井に頼んで河井の奥さんを出すようにした。その時に安倍さんが「そんなの放っておとけ」と言えばよかった。彼の欠点は周りに「放っとけ」と言えないことね。だから安倍マスク、つまりらないことやるよね。

安倍さんは、放っとけばいいのに、そのとき2人とも当選すると言ったね、怪しい。そういう時はやはり自民党の中から「止めた方がいいよ」という声が出たほうがいいのだよね。何で出ないの？ 自民党の中で。

中谷 学院長：岸田先生が二階幹事長に申し出はしましたけれどもね。

田原 講師：ねえ、だから、そんなもの間違いに決まっているじゃない。今までだって、広島は溝手をみんな応援しているのだから。首長だって県会議員だって市会議員だって。そいつらを河井案里にするためには、カネをばらまくしかないのだよね。バカみたいな話なのだ。こんなものは自民党の中で「やめた方がいいよ」という声が出なければ。野党がダメなのだから。自民党はそこをしっかりと、ちゃんと議論できるような党にしなければダメなのだ。頑張ってよ。

中谷 学院長：はい。

務台 副学院長：それでは先生方、他にいかがでしょうか。

田原 講師：僕は、言っておくけど、安倍さんにも、小泉さんでも誰でも、言いたいことは全部言うよ。言うとな、むしろ逆に信用してくれるのだよ。ね？ 石破さん。

石破 衆議院議員：そう、ですね。(笑)

田原 講師：石破さんは僕を信用してくれていると思うよね。

石破 衆議院議員：ありがとうございます。すみません、先生の顔を見にだけ来たので、遅くなって本当に申し訳ありません。田原先生といろんなお話をするようになって、もう33年になると思いますが、おっしゃることは全く変わらなくて、筋が通っていて。それに「そうだね」という議員はかなり減ったような気がする。私、当選1回でしたから、まだ昭和なんて言っていた時代であって、中谷学院長より1期上なのですけど。本当に侃々諤々の議論、この部屋でやりましたよ。怒鳴り合いだったし、灰皿も飛んだし、私たちは海部（俊樹）さんのところへも宮澤さんのところへも押しかけて、それはおかしいのじゃないですか？ ということをした。何でこれがなくなっちゃったのか。今にして思えば、選挙制度がまずかったのじゃないのかと。

田原 講師：だから石破さんが幹事長の時に、選挙制度を変えろと言ったじゃない。

石破 衆議院議員：すみません。ただ、今の制度で当選した人たちは、今のルールが一番いいと思っているわけですね。中選挙区で私、3回やっています。中谷さんが2回。安倍さんは1回だけ中選挙区で選挙をやっているけれど、あの時は、2世でなくても、金持ちじゃなくても、タレントじゃなくても、官僚じゃなくても、志と能力のある人は党が全面的にバックアップして当選できるようにしたいと私たち本当に思いました。2世でなくても出られるようにするのが2世の最後の仕事だと本当に思っていました。

だけど、そうはならなかった。あの時にずいぶん議論があったのは、まず自民党を選ん

で、その中で誰がいいかなと選べるのがいいところだ。自民党は好きだけど、この人は嫌いというのがあるわけで、人間ですから。そういういい加減なのがダメなのだと私たちは言いました。

今から変えるのは難しいと思うけれども、有権者の立場に立ってみると、まず自民党を選んで、その中で誰がいいかなという方リーズナブルだったかもしれない。私たち政治改革論議は「議員の側に立った論理」で、有権者の側に立っていなかったのではないかと、いう反省を私は持っているのです。元の中選挙区制に戻すべきだとは言いませんが、例えば定数3だったら2人書けるとか、自民党と共産党を書いちゃうと、その人の意思は那邊にありやと、さっぱり分からないので、同じ党の人ならば2人書ける。だから野党は複数出さなければいけないわけですがけれども、当然ね。何らか選挙制度を変えないと今の日本の政治の劣化は止まらないのではないかという気がするのです。

田原 講師：それでね、僕は皆さんに言いたい。皆さんが選挙区に帰ったらね、選挙民、自民党に対する不信感、相当に強いと思うよ。思うでしょ？ 何でこんなに不信感強いのだと。この不信感をなくさないといけね。このために。こんなに不信感が強いのは何だと、菅さんにちゃんとと言わなければいけないよ。あなたの言い方、間違っているのではないかと。

僕は別に反自民じゃないのだよ。この国をよくするためにやるべきことをちゃんとやるべきなのだ。それを言わないから、どんどん政治が劣化する。本当に。頑張ってよ。

自民党が頑張らないと、これ劣化するからね。頑張るということは、言いたいことを総理にも幹事長にも官房長官にもちゃんとと言うとういことよ。

加藤勝信（内閣官房長官）に何度も言っているのだよ。あなた、菅さんの言うこと、気に入らないことあるんじゃないの？ ちゃんと見えよ。そうしたら加藤が、「いや官房長官ごときで総理に気に入らないことなど言えませぬよ」と言うから、「じゃ、気に入らないことあったら僕に言え。僕が言うから」と言っているの。頑張ってください（笑い）。

務台 副学院長：はい。ありがとうございました。講演の趣旨からは若干外れているかもしれませんが、かえって本質を衝いているかもしれない、そのように思いました。それでは最後に、主催者の中谷学院長から一言、お願いします。

中谷 学院長：どうも田原さん、お話をありがとうございました。非常に率直なご意見をいただきまして、今日一番の大きなメッセージは、自民党は、もっと勇気をもって党内で激しく議論し、そして国民の意見を伝えるべきだということで、我々に対する叱咤激励でしたが、やはり我々も国の将来を考えて、やるべきことをしっかりやっていかなければならないという思いでございます。

務台 副学院長：それでは閉会の時間となりましたので、これで終了させていただきます。

Web ご参加の塾生の皆様、ありがとうございました。

(この回おわり)